

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
令和6年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
既往災害データならびに水文データの解析に基づく六甲山の土砂災害将来予測 (研究期間：R6 年度～R7 年度)	京都大学農学研究科 教授 小杉賢一朗	A
<研究概要> 昭和42年7月豪雨により土砂災害が発生し甚大な被害をもたらした六甲山では、その後、これを超える規模の「豪雨による土砂災害」は発生していない。しかしながら、気候変動に伴う降雨特性の変化により、今後、土砂災害が頻発化・激甚化する可能性が考えられる。本研究では、六甲山における降雨パターンと土砂移動パターンの対応に関する解析、ならびに六甲山における近年および将来の降雨パターンの特徴の解析に基づき、今後の土砂動態・土砂災害の傾向を検討した。		
<事後評価コメント> 本研究では、土砂移動形態を深層崩壊型、湧水誘因型、表層崩壊型に分けて、型毎の降雨パターンと土砂移動パターンの関係を解析したことは、警戒・避難情報の提供に資する成果であると大いに評価出来る。 今後は、他地域への試行と将来危険性が増大する土砂移動現象の予測のための検討をすすめるとともに、更なる精度向上と実用化を図れるよう検討いただきたい。		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い